

# 見よ、彼が、雲に乗ってこられる

(黙示録1:7)

## 1. はじめに

黙示録のキーフレーズはあの有名な1章7節の御言葉である。

(※ 翻訳上の問題点については後に確認する。)

**黙示録1:7** 見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。



ここに書かれている御言葉通りにキリストは雲に乗って戻って来られるのか。聖書の中で黙示録ほど、象徴、隠喩 (Metaphor : メタファー) に満ちた書物は他にない。また、黙示録は徹底的に旧約聖書に繋がっている。この二つの視点を無視した読み方では黙示録は読み解けないのである。教会は長い間、雲に乗って戻って来られるキリストを待ち続けてきた。しかし、キリストは果たして雲に乗って戻ってこられるのか。黙示録1章1節で使徒ヨハネはこの書の黙示は「すぐに起こるはずの事」だと語っている。しかし、約二千年が過ぎても戻ってこないキリストだが、教会は雲に乗って戻って来られる再臨のキリストを約二千年間も待ち続けている。ならば、私たちが何か誤解しているのではないだろうか。

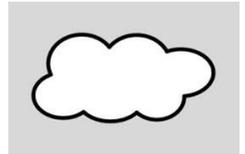


**黙示録1:1** イエス・キリストの黙示。これは、**すぐに起こるはずの事**をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。

黙示録の1章1節の最初の言葉は「イエス・キリストの黙示」である。聖書の各書物を読む時の基本的な心得として一つ確認すべきことはその書物のジャンルである。黙示録のジャンルは何か。それは、ヨハネがこの書の冒頭で語っているように黙示である。歴史ではない。だから、黙示録を読むためには象徴、隠喩 (Metaphor : メタファー) を知る必要がある。そして、一貫性のある読み方が必要である。あるところは象徴、他のところは実際的な数字や物理的な事象として読むのでは正しく読み取ることはできない。また、黙示録が旧約聖書と深く結びついていることを無視して読むのでは、黙示録の本質的な意味は読み取れないのである。

今日は聖書に出てくる重要なMetaphor (メタファー) の一つでもある「雲」について確認し、黙示録1章7節の正しい意味を探ってみることにする。

## 2. 雲



ギリシャ語：νεφέλη (nephelē)    ヘブライ語：אָנָן (anan)

聖書に出てくる雲という単語を調べ、それを単数形と複数形に分類してみると次のようになる。ちなみに黙示録1章7節の「雲」は複数形で書かれている。

単数	聖書
<p>雲という単語、旧約聖書ではダニエル7章13節以外は殆ど単数形として出てくる。</p> <p><b>①主</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出13:21, 33:9</li> </ul> <p>※雲にはאָנָןという単語は殆ど使われていない。נֶחֱמָלが使われている。</p> <p><b>②主の栄光</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出24:16, 40:34~35</li> <li>・民16:42    I列8:11    II歴5:14</li> <li>・エゼ1:28, 10:4</li> </ul> <p><b>③主のことば</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出40:36~38</li> </ul> <p>※これは、目でみることを通して主が語られるのである。ここで雲は神のことばであり、命令である。すなわち、イスラエルが旅立つことの規準は雲として現れた神のことば、神の命令であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民9:17~18, 11:25</li> <li>・申5:22</li> </ul> <p><b>④幕屋、神殿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レビ16:2,13    民9:15    II歴5:13</li> </ul> <p>※幕屋と神殿が雲と関連があるが、新約時代に入ると私たち(聖徒たち)が幕屋であり、神殿であるので、雲は私たちを象徴するものとなる。</p> <p><b>⑤さばき</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エゼ30:3,18, 32:7, 38:16</li> <li>・ゼパ1:15</li> </ul> <p>旧約聖書に現れる雲は一言で言うならば「神のご臨在」と見ることができる。</p>	<p><b>①出13:21</b> 【主】は、昼は、途上の彼らを導くため、雲の柱の中に、夜は、彼らを照らすため、火の柱の中において、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。<b>出3:9</b> モーセが天幕に入ると、雲の柱が降りて来て、天幕の入口に立った。主はモーセと語られた。</p> <p><b>②出24:16</b> 【主】の栄光はシナイ山の上にとどまり、雲は六日間、山をおおっていた。七日目に主は雲の中からモーセを呼ばれた。<b>出民16:42</b> 会衆が集まってモーセとアロンに逆らったとき、ふたりが会見の天幕のほうを振り向くと、見よ、雲がそれをおおい、【主】の栄光が現れた。<b>I列8:11</b> 祭司たちは、その雲にさえぎられ、そこに立って仕えることができなかった。【主】の栄光が【主】の宮に満ちたからである。<b>エゼ10:4</b> 【主】の栄光がケルブの上から上り、神殿の敷居に向かうと、神殿は雲で満たされ、また、庭は【主】の栄光の輝きで満たされた。</p> <p><b>③出40:36-38</b> イスラエル人は、旅路にある間、いつも雲が幕屋から上ったときに旅立った。雲が上らないと、上る日まで、旅立たなかった。イスラエル全家の者は旅路にある間、昼は【主】の雲が幕屋の上に、夜は雲の中に火があるのを、いつも見ていたからである。<b>申5:22</b> これらのことばを、【主】はあの山で、火と雲と暗やみの中から、あなたがたの全集会に、<b>大きな声で</b>告げられた。このほかのことは言われなかった。主はそれを二枚の石の板に書いて、私に授けられた。</p> <p><b>④レビ16:2</b> 【主】はモーセに仰せられた。「あなたの兄アロンに告げよ。かつてな時に垂れ幕の内側の聖所に入って、箱の上の『贖いのふた』の前に行ってはならない、死ぬことのないためである。わたしが『贖いのふた』の上の雲の中に現れるからである。<b>民9:15</b> 幕屋を建てた日、雲があかしの天幕である幕屋をおおった。それは、夕方には幕屋の上であって火のようなものになり、朝まであった。</p> <p><b>⑤エゼ30:18</b> わたしがエジプトのくびきを砕き、その力強い誇りが絶やされるとき、タフパヌヘスでは日は暗くなり、雲がそこをおおい、その娘たちはとりことなって行く。<b>エゼ32:7</b> あなたが滅び去るとき、わたしは空をおおい、星を暗くし、太陽を雲で隠し、月に光を放たせない。<b>ゼパ1:15</b> その日は激しい怒りの日、苦難と苦悩の日、荒廃と滅亡の日、やみと暗黒の日、雲と暗やみの日、</p>

単数	聖書
<p><b>⑥自然の雲</b> ・ルカ12:54</p> <p><b>⑦キリスト</b> ・マタ17:5 マル9:7 使1:9 ※旧約聖書から新約聖書まで単数形で出てくる雲は私たち（聖徒たち）と直接繋がるものではない。複数形となると私たちと関連があるものになる。 ・ I コリ10:1~2</p>	<p><b>⑥ルカ12:54</b> 群衆にもこう言われた。「あなたがたは、西に雲が起こるのを見るとすぐに、『にわか雨が来るぞ』と言い、事実そのとおりになります。</p> <p><b>⑦マタ17:5</b> 彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲がその人々を包み、そして、雲の中から、「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞きなさい」という声がした。<b>使徒1:9</b> こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。<b>I コリ10:1-2</b> そこで、兄弟たち。私はあなたがたにぜひ次のことを知ってもらいたいです。私たちの父祖たちはみな、雲の下におり、みな海を通過して行きました。そしてみな、雲と海とで、モーセにつくバプテスマを受け、</p>

複数	聖書
<p><b>①聖徒たち</b> ・ダニ7:13</p>	<p><b>ダニ7:13</b> 私がまた、夜の幻を見てみると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。</p>
<p><b>①聖徒たち</b> ・ユダ1:12 黙19:9 ※ユダ1:12に出てくる「水のない雲」とは偽教師たちのことである。「水」すなわち「真理」のない偽りを教える教師をそのように表現したのである。黙示録19:9には「小羊の婚宴に招かれた者たち」が出てくるが、続く「これは神の真実のことばです」とあるところは「小羊の婚宴に招かれた者たちは神の真実のことばです」とも読める。すなわち、神の真実のことば、真理、それを持っている者と持っていない者を雲にたとえている。 ・マタ24:30, 26:64 マル13:26, 14:62 黙1:7 ・ヘブ12:1</p>	<p><b>ユダ1:12</b> 彼らは、あなたがたの愛餐のしみです。恐れげもなくともに宴を張りますが、自分だけを養っている者であり、風に吹き飛ばされる、<b>水のない雲</b>、実を結ばない、枯れに枯れて、根こそぎにされた秋の木、<b>黙19:9</b> 御使いは私に「小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい」と言い、また、「これは神の真実のことばです」と言った。</p> <p><b>マタ24:30</b> そのとき、人の子のしるしが天に現れます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。<b>マタ26:64</b> イエスは彼に言われた。「あなたの言うとおりで。なお、あなたがたに言っておきますが、今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見ることになりません。」<b>マル13:26</b> そのとき、人々は、人の子が偉大な力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。<b>マル14:62</b> そこでイエスは言われた。「わたしは、それです。人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るはずです。」<b>黙1:7</b> 見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。</p> <p><b>ヘブ12:1</b> こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。</p>

雲に乗ってこられる再臨のイエス様を待ち続ける私たち主の教会は、黙示録が書かれて約二千年が過ぎても、なお雲に乗ってこられるイエス様を待っている。これはイエス様が語られた終末を私たちが正しく理解できなかったためにそうなっているのである。黙示録の読み方が根本からイエス・キリストと使徒たちの教えたことからずれていることを意味する。

### 3. 黙示録1章7節の翻訳上の問題点「見よ、彼が、雲に乗って来られる。」

黙示録1:7 見よ、彼が、雲に乗って来られる。

Ἰδοὺ, ἔρχεται μετὰ τῶν νεφελῶν

イドゥ エルケタイ メタ トン ネフェロン

見よ 彼が今、来られる ~と共に その 雲ら

黙示録1:7 見よ、彼が、その雲らと共に今、来ておられる。

この御言葉は、ギリシャ語の意味を正しく訳すなら、「見よ、彼が、その雲らと共に今、来ておられる」ということになる。すなわち、ここで使われている「来る」という意味のギリシャ語「ἔρχομαι エルコマイ」は「3人称単数の現在形で書かれている」なのに、私たちの聖書の訳は未来形のニュアンスを感じさせる「来られる」と訳されているのは何故なのか。それは、雲に乗って来るはずのキリストが未だに来ていないと思うからである。また、「~と共に」という意味のギリシャ語「μετὰ メタ」は「乗って」と訳されている。「雲」を物理的な空にあるあの雲と考えるために、「乗って」になるのである。そして、「雲」という意味のギリシャ語「νεφέλη ネフェレ」は、黙示録1章7節では「νεφελῶν ネフェロン」複数形になっている。聖書に出てくる雲は殆どが物理的な雲ではなく、象徴（Metaphor:メタファー:隠喩）である。

### 4. 結論

旧訳聖書に出てくる「雲」が殆ど単数形であったのに対して、新約聖書に出てくる「雲」は殆どが複数形である。そして、聖書で「雲」が複数形使われるときは「聖徒たち」を意味する。「雲：複数形」は、**黙示録19:9** 御使いは私に「小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい」と言い、また、「これは神の真実のことばです」と言った。「真理の御言葉を伝える者たち」「聖徒たち」である。そうであるなら、黙示録1章7節の正しい本質的な訳は「見よ、彼が、その聖徒らと共に今、来ておられる。」と訳すべきである。